

# SOTO 分析事例紹介

## ～私鉄に関する身近で気になるデータ～

### ■ はじめに

2006年度に調査を開始した「SOTO（屋外メディア総合調査）」ですが、この度、5回目のデータリリースを無事に行うことが出来ました。

「SOTO」の調査対象である東京30km圏には、小田急電鉄、京王電鉄、京急電鉄、京成電鉄、相模鉄道、西武鉄道、東急電鉄、東武鉄道などたくさんの私鉄が東京都下、神奈川県、埼玉県、千葉県、の各方面に走っています。筆者も神奈川県下から小田急線⇒千代田線（小田急線乗り入れ）⇒半蔵門線と乗り継いで毎日通勤しております。そんな通勤の中で都心と郊外を結ぶ私鉄うち、朝の通勤ラッシュが大変なのはどこだろうかと考えていました。

そこで、この機会に「SOTO」のデータを使って各私鉄の通勤時間帯の利用者数や、各私鉄沿線居住者がよく訪れる街のイメージと一般的なイメージに違いがあるかなど身近な疑問をデータでみていきます。

今回取り上げる私鉄の路線は、小田急線・京王線・京王井の頭線・京成線・京浜急行・西武池袋線・西武新宿線・東急東横線・東急田園都市線・東武伊勢崎線・東武東上線の都心と郊外を結ぶ11路線を対象といたします。

最後に、街イメージとして、日本一多くの鉄道事業者が乗り入れている横浜駅周辺を取り上げます。横浜駅はJR東日本、横浜市営地下鉄、京急電鉄、東急電鉄、横浜高速鉄道、相模鉄道の6社が乗り入れています。今回は都心と郊外を結ぶ私鉄がテーマですので、東急東横線、京浜急行線の利用者と調査対象者全体を比較します。

なお「SOTO」は東京30km圏のデータですので、その点、考慮願います。

### ■ 「SOTO」で見る都心と郊外を結ぶ私鉄

具体的には、以下の4つを取り上げます。

#### <各私鉄利用>

- ①朝の通勤時間帯（7時～8時台）に利用者が多い私鉄はどこか？
- ②相互乗り入れがある路線の利用率は高い？
- ③各私鉄の平日利用者が、土日に訪れる街はどこか？

また、よく利用している商業施設はどこか？

#### <横浜駅周辺>

- ④街イメージを比較（個人全体 VS 京浜急行利用者 VS 東横線利用者）
- それでは、①から順にデータをみていきます。

#### ①朝の通勤時間帯（7時～8時台）に利用者が最も多い私鉄は？

現在は時差出勤やフレックスタイムが導入されている企業も多く、通勤時間帯が7時～8

時台に限定されていないことや、自宅から勤務地までの所要時間の違いなどから9時～10時台にシフトしている路線なども考えられますが、ここでは7時～8時台を通勤時間帯と設定いたします。

現在、「SOTO」にある項目で以下の様に利用時間帯別の利用率データを作成します。

A：各私鉄路線の「1日あたりの利用率[平日平均]」

B：「利用時間帯[平日]」の朝7時～8時台（各私鉄路線の1ヵ月利用者データ[平日]より）」

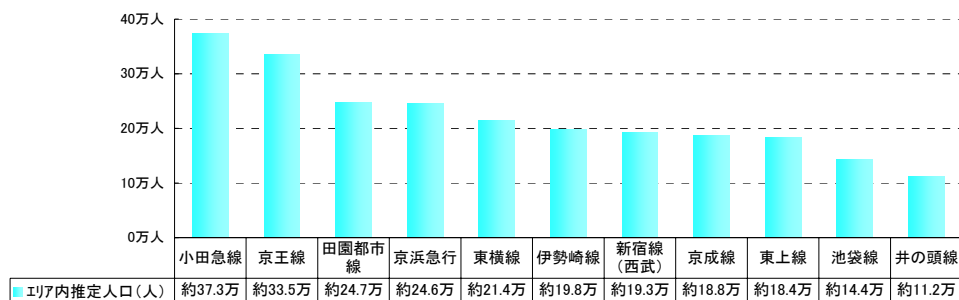
AにBを掛けて、朝7時～8時台の利用率[平日平均]としました。

【図表1】は、その過程と結果を示したものになります。棒グラフは算出した朝7時～8時台の利用率[平日平均]に更に、エリア内推定人口（18,651,150人）を掛けて推定利用者数を示しています。

【図表1】朝7時～8時台の利用率と推定利用者数

路線	A 1日あたりの利用率 [平日平均]	×	B 利用時間帯 (朝7時～8時台)[平日]	≒	A×B 朝7時～8時台の利用率 [平日平均]
小田急線	3.3%	×	60.7%	≒	2.00%
京王線	3.3%	×	54.4%	≒	1.80%
田園都市線	2.3%	×	57.6%	≒	1.32%
京浜急行	2.4%	×	55.0%	≒	1.32%
東横線	2.6%	×	44.1%	≒	1.15%
伊勢崎線	1.9%	×	56.0%	≒	1.06%
新宿線(西武)	2.0%	×	51.7%	≒	1.03%
京成線	1.6%	×	63.1%	≒	1.01%
東上線	1.7%	×	57.9%	≒	0.98%
池袋線	1.5%	×	51.3%	≒	0.77%
井の頭線	1.2%	×	50.0%	≒	0.60%

※Aは調査対象者全体の（N=4,006） Bは1ヵ月での各路線利用者が母数となります。



1日あたりの利用率[平日平均]では、小田急線と京王線が3.3%で最も高く、東横線(2.6%)、京浜急行(2.4%)の順に続いています。次に、利用時間帯[平日](朝7時～8時台)のスコアを見ると、京成線、小田急線は路線利用者の6割超が朝7時～8時台に利用していることがわかります。

A×Bの朝7時～8時台の利用率[平日平均]については小田急線が唯一2%に達し、エリ

ア内推定人口に換算すると、小田急線は約37.3万人の利用者がいることがわかります。小田急線のこの時間帯の通勤ラッシュを知っている筆者にとっては納得の結果ではありましたが、このデータだけでは、実際の混雑度合まではわかりません。それは、「SOTO」の調査対象者があくまで東京30km圏の居住者に限定されていることや電車の本数、急行・各駅停車などの種別の違い、編成車両数などによっても混雑度合いが変わるため、利用者数だけで判断する事は難しいからです。

②相互乗り入れがある路線の利用率は高い？

筆者が利用している小田急線は代々木上原駅より千代田線への乗り入れを行っています。小田急線以外にも多くの私鉄路線が他社線との相互乗り入れを実施しています。②以降は、1日あたりの朝7時～8時台の利用率が高かった5つの路線（小田急線・京王線・田園都市線・京浜急行・東横線）に絞って、みていきます。

各私鉄と相互乗り入れを実施している路線の利用者をまとめたものが【図表2-1】になります。

【図表2-1】各私鉄路線の相互乗り入れ表

私鉄路線	乗り入れ路線	乗り入れ駅	直通運転
小田急線	⇔ 千代田線	代々木上原駅	一部の準急・急行列車
京王線(新線)	⇔ 都営新宿線	新宿駅(新線のホーム)	一部の列車
田園都市線	⇔ 半蔵門線	渋谷駅	原則直通運転
京浜急行	⇔ 都営浅草線	泉岳寺駅	一部の列車
東横線	⇔ 日比谷線	中目黒駅	一部の列車

【図表2-2】各私鉄路線利用者の他社線利用率

	小田急線
千代田線	24.6%
山手線	22.3%
南武線・鶴見線	18.2%
中央線(快速)	13.6%
井の頭線	13.6%
	京王線
山手線	34.0%
井の頭線	25.9%
中央線(快速)	24.3%
新宿線(都営)	14.7%
総武線(各駅停車)	13.7%
	田園都市線
半蔵門線	36.7%
山手線	31.0%
小田急線	19.2%
南武線・鶴見線	14.0%
銀座線	13.8%
	京浜急行
京浜東北線	33.6%
山手線	28.3%
浅草線	18.3%
東海道線	18.1%
南武線・鶴見線	11.3%
ブルーライン(1,3号線)	10.4%
	東横線
山手線	38.1%
日比谷線	20.2%
京浜東北線・根岸線	18.4%
横浜線	16.3%
南武線・鶴見線	14.6%

各私鉄の乗り入れ線

【図表2-2】を見ると、各私鉄路線とも乗り入れ路線の利用率は高いスコアとなっていますが、その中でも田園都市線利用者のうちの半蔵門線利用者は36.7%で、最も高いスコアとなりました。田園都市線のスコアが高い要因として考えられるのは、終着駅(渋谷駅)での相互乗り入れと原則直通運転を実施しているということが挙げられます。小田急線の場合は代々木上原駅での乗り入れであり、かつ直通運転を実施しているのは、一部の準急・急行列車のみとなっています。京王線の場合も一部の列車での直通運転ということと、京王線本線のホームではなく、笹塚駅より分岐する京王新線から都営新宿線への乗り入れであることなど、他4線は田園都市線と半蔵門線ほど、ストレートな接続形態にはなっていないことがスコア差の要因になっていると考えられます。また、東横線は副都心線と2012年度中に相互乗り入れを実施する予定となっており、今後も鉄道会社間での連携によって、より利便性が向上していくと考えられます。

③各私鉄の平日利用者が、土日に訪れる街はどこか？

平日は通勤・通学で都心に向かう利用者が多いと考えられますが、土日はどの街をよく利用しているのか、路線別に示したものが【図表3】になります。

【図表3】各私鉄の平日利用者が土日に訪れる街

	小田急線	調査対象者全体
町田駅周辺	7.3%	1.0%
横浜駅西口周辺	5.9%	2.4%
横浜駅東口周辺	4.1%	1.6%
新宿南口周辺	4.1%	2.3%
下北沢駅周辺	3.7%	0.5%
	京王線	調査対象者全体
新宿西口周辺	10.6%	2.8%
新宿東口周辺	7.5%	2.7%
調布駅周辺	7.0%	0.8%
新宿南口周辺	4.8%	2.3%
池袋東口・サンシャイン周辺	4.0%	3.1%
八王子駅周辺	4.0%	1.2%
	田園都市線	調査対象者全体
渋谷道玄坂・東急本店通り周辺	8.2%	1.9%
渋谷センター街・公園通り周辺	6.3%	1.6%
二子玉川駅周辺	6.3%	0.6%
新宿東口周辺	5.1%	2.7%
横浜駅西口周辺	3.2%	2.4%
渋谷 宮益坂周辺	3.2%	1.0%
	京浜急行	調査対象者全体
横浜駅西口周辺	12.4%	2.4%
川崎駅周辺	10.7%	1.9%
横浜駅東口周辺	9.5%	1.6%
関内・伊勢佐木町周辺	5.3%	1.1%
桜木町・みなとみらい周辺	4.1%	1.5%
	東横線	調査対象者全体
横浜駅西口周辺	11.6%	2.4%
横浜駅東口周辺	7.4%	1.6%
渋谷宮益坂周辺	5.8%	1.0%
自由が丘	5.8%	0.8%
桜木町・みなとみらい周辺	5.3%	1.5%

傾向として、平日に利用している路線の沿線にある街に訪れていることと、沿線によっては郊外のターミナル駅周辺の利用率が新宿・渋谷などの都心部よりも利用率が高くなっていることが挙げられます。例えば、京浜急行・東横線利用者であれば「横浜駅周辺」、小田急線利用者では「町田駅周辺」といった具合です。また、京王線利用者は「新宿西口・東口周辺」よりもスコアが低いものの、「調布駅周辺」が7.0%、田園都市線利用者の場合は「二子玉川駅周辺」が6.3%とそれぞれ沿線上の街のスコアが高くなっています。都心部よりも郊外のスコアが高いのは、土日は「都心の人混みを避けたい」という様な心理的な要因が働いているのかもしれない。

【図表4】各私鉄の平日利用者が3ヵ月以内に訪れた商業施設

	小田急線	調査対象者全体
小田急[町田]	17.4%	2.4%
ビブレ[新百合ヶ丘]	16.9%	1.7%
OPA[新百合ヶ丘]	16.4%	1.7%
伊勢丹[新宿]	16.0%	9.0%
小田急[新宿]	16.0%	6.3%
東急ハンズ[町田]	16.0%	1.8%
	京王線	調査対象者全体
京王[新宿]	30.4%	5.9%
小田急[新宿]	17.6%	6.3%
高島屋タイムズスクエア[新宿]	16.7%	7.6%
東急ハンズ[新宿]	16.3%	7.0%
伊勢丹[新宿]	16.3%	9.0%
	田園都市線	調査対象者全体
玉川高島屋S・C	28.5%	4.1%
東急[東横店]	20.9%	5.0%
なまプラーザテラス	19.0%	1.7%
東急ハンズ[渋谷]	18.4%	4.3%
高島屋[横浜]	14.6%	6.5%
ららぽーと横浜	14.6%	5.1%
	京浜急行	調査対象者全体
ラゾーナ川崎プラザ	28.4%	7.3%
そごう[横浜]	26.6%	5.9%
京急百貨店[上大岡]	24.3%	2.2%
アゼリア[川崎]	19.5%	3.1%
高島屋[横浜]	18.9%	6.5%
	東横線	調査対象者全体
東急[東横店]	25.3%	5.0%
ラゾーナ川崎プラザ	23.2%	7.3%
高島屋[横浜]	20.0%	6.5%
そごう[横浜]	18.9%	5.9%
東急ハンズ[渋谷]	15.3%	4.3%
トレッサ横浜[綱島]	15.3%	2.5%

では、続いて各私鉄の平日利用者が3ヵ月以内に訪れた商業施設をみていきます。【図表4】は、路線別に上位5つの商業施設を取り上げております。

これを見ると京浜急行、東横線利用者では「そごう[横浜]・「高島屋[横浜]」、小田急線利用者であれば「小田急[町田]」、田園都市線利用者であれば「玉川高島屋S・C」など【図表3】の土日に訪れる街の駅周辺商業施設がよく利用されていることがわかります。また、京王線利用者は上位5つが全て新宿駅周辺の商業施設で占められていますが、調布駅周辺の商業施設ではランク外であるものの、「パルコ[調布]」が12.8%と比較的高いスコアを示しています。

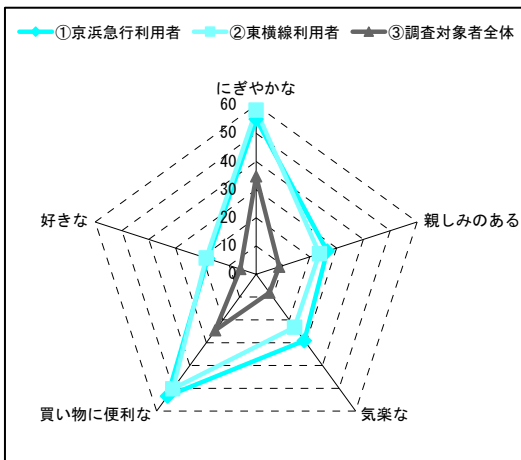
④横浜駅周辺（西口・東口）の街イメージを比較

（京浜急行利用者 VS 東横線利用者 VS 調査対象者全体）

【図表3】を見ると、横浜駅を通る京浜急行・東横線ではいずれも横浜駅周辺（西口・東口）の来街率が上位に入っていることがわかります。【図表5】では、横浜の街をよく訪れる京浜急行利用者、東横線利用者における、横浜駅周辺（西口・東口）のイメージを調査対象者全体と比較してみます。

【図表5】横浜駅（西口・東口）周辺の街イメージ比較

街イメージ項目	①京浜急行利用者	②東横線利用者	③調査対象者全体	イメージ差 ①-③	イメージ差 ②-③
都会的な	22.8%	28.3%	18.9%	3.9%	9.4%
話題性のある	7.4%	11.4%	6.9%	0.5%	4.5%
にぎやかな	55.0%	58.2%	34.7%	20.3%	23.5%
落ち着いた	6.9%	5.5%	3.1%	3.8%	2.4%
おもしろい	11.6%	13.1%	6.3%	5.3%	6.8%
親しみのある	26.5%	23.6%	8.6%	17.9%	15.0%
上品な	4.8%	6.8%	2.8%	2.0%	4.0%
気楽な	29.1%	23.2%	8.1%	21.0%	15.1%
高級感のある	3.7%	3.4%	2.3%	1.4%	1.1%
個性的な	3.2%	5.9%	2.4%	0.8%	3.5%
新しい	5.8%	5.5%	3.5%	2.3%	2.0%
歴史がある	4.8%	10.1%	5.2%	-0.4%	4.9%
発展している	16.4%	18.6%	9.7%	6.7%	8.9%
おしゃれな	13.2%	12.2%	8.4%	4.8%	3.8%
庶民的な	13.8%	13.1%	5.7%	8.1%	7.4%
楽しそうな	15.3%	19.0%	8.8%	6.5%	10.2%
買い物に便利な	53.4%	50.2%	24.6%	28.8%	25.6%
ビジネスに便利な	13.2%	14.8%	8.1%	5.1%	6.7%
住みやすそうな	3.7%	4.2%	2.5%	1.2%	1.7%
好きな	18.0%	18.6%	5.9%	12.1%	12.7%



京浜急行利用者と東横線利用者のスコアに大きな差は見られませんでした。しかし、両者を調査対象者全体と比較すると差があることがわかります。特に「買い物に便利な」、「気楽な」、「にぎやかな」、「親しみのある」、「好きな」の5項目においては10ポイント以上の明確なスコア差があり、街イメージがその街の利用度合いやアクセスのしやすさで大きく異なることがわかります。

各私鉄の平日利用者が土日に訪れる街や利用する商業施設が沿線上にあること、よく訪れる街に対するイメージが良いことはある程度想定できる結果かもしれませんが、この様に、データとして改めてみることによって、より具体的に把握することができます。

## ■ 最後に

今回は都心と郊外を結ぶ私鉄に関するを中心に、普段の生活から感じられる事をデータで見てきました。今後も機会があれば、「SOTO」データを利用した様々な分析事例をご紹介していきたいと思ます。

### 【SOTO 調査概要】

- ◇調査期間 : 2010年5月31日(月)～2010年6月6日(日)
- ◇調査地域 : 東京30km圏(東京駅を中心として、半径30km圏に含まれる市区町村全域)  
及び八王子市、福生市、昭島市、武蔵村山市
- ◇調査対象者 : 調査時に満15～69歳の男女個人(但し、中学生は除く)
- ◇有効標本数 : 4,006人
- ◇標本抽出法 : RDD(ランダム・デジット・ダイヤリング)により対象者を抽出し、調査への協力を依頼
- ◇調査方法 : 調査に応諾した対象者5,000人へ日記式調査票と付帯調査票を郵送で配布し、  
調査期間終了後に郵送で回収